令和4年度　西東京市立田無小学校　学校関係者評価表

学校教育目標	**◎よく考えて工夫する子ども　◎仲よく、助け合う子ども**　○よく働き、責任をもつ子ども　○きまりを守り、礼儀正しい子ども　○健康で、ねばり強い子ども
目指す学校像	**○「誠実に」「着実に」「確実に」児童の成長を促す教育を進める学校を目指す。～明日も通いたくなる学校を目指して～**
目指す子供像	○「**た**くましい体と心　**な**ごやかな心　**し**っかりとした学び　笑顔いっぱい田無の子」
目指す教師像	○「西東京あったか先生プロジェクト』を踏まえ、田無小学校の教育目標の達成に向かい、力を合わせて取り組む教職員集団 (1)分かる授業を工夫し、授業力の向上に励む教職員　(2)常に児童理解に努め、一人一人の児童に安心と元気を与える教職員 (3)保護者の不安・悩みや要望等を受け止め、家庭及び地域と連携・協働する教職員　(4)一人一人が組織の一員としての自覚をもち、チームで職務を推進する教職員

	具体的方策	学校自己評価		学校の取組み及び改善策	学校関係者評価	学校関係者評価記入欄
		努力目標	成果目標			
確かな学力	週3回、朝学習の時間を設定し、漢字・計算プリントやe-ライブラリ、読書などに取り組ませる。	3	3	西東京市の方針により、新型コロナウィルス感染予防のための時差登校が継続しているため、４年生以上は朝学習の時間を確保することができなかった。３年生以下は、朝学習を実施し、漢字・計算プリント、eライブラリを活用して基礎基本の定着を図ることができた。４年生以上は、授業の冒頭の時間や課題が早く終わった時の待ち時間等を利用して、朝学習と同等の内容に取り組めるように工夫した。学習の成果物、感想等から判断すると、年度当初と比べて、基礎基本の学力が概ね身に付いていると判断できる。週３回程度の時間を確保が難しい学年もあったので、来年度は、４年生以上も、曜日などを設定して、時間を確保できるように工夫したい。	4	○先生達が一生懸命に取り組んでいる。先生達の連携が上手くいっていると感じられた。 ○今後も個別最適化した学びの実現に向けて研究等を行ってほしい。 ○時差登校の中で、できる限りの朝学習などができていると思う。 ○来年度、時差登校がなくなったら、しっかりと朝学習の時間を取り、子供たちの学力を高めてほしい。
	ペアやグループでの学び合い、タブレット端末を活用した学習となるように、授業改善に取り組む。	4	4	コロナ禍において、ペアやグループでの学び合いを効果的に行うために、タブレット端末の活用に力を入れた。授業中のどの場面でタブレット端末を活かすことができるか、各学年が報告し合い、教職員全員でレベルアップできるように取り組んだ。学期末アンケートの結果では児童の９５％以上が、「授業が分かりやすい」と回答している。授業は学校生活の基本である。今後もペア学習、小集団での学び合い等が難しい状況下でも、できる形態を模索しながら授業を実施していく。継続して、よりよい授業づくりのために研修を重ねていく。	4	○各教科等で得た知識・技能、思考力・判断力・表現力を生かし、総合的な学習の時間（ふるさと探究学習）で、汎用性を身に付けてほしい。 ○学校外でも、学び合っている子供たちの様子を見ることができた。 ○タブレットを使った学習を継続してほしい。今の時代に合っていると感じる。
健康な体と心の育成	他者のよいところを見付け、認め、自他を大切にする心を育てる指導をする。	4	3	まずは、教職員が児童のよいところを見付け、褒めることで、他者を大切にする手本を示すことにした。自分のクラスの児童だけでなく、田無小の児童全員を、田無小の教職員全員で指導する気持ちで全教職員が、この取り組みを１年間行うことができた。児童の同士でも、温かい言葉をお互いに掛け合う姿がたくさん見られるようになっている。年度末の児童アンケートでは、約９３％の児童が「楽しく学校に通っている」と回答した。残りの７％の児童の気持ちの理解に努め、来年度も100％を目指して取り組んでいく。	4	○先生達のよい人柄、熱意が感じられる。田無小の子は恵まれていると思う。 ○子供たちを信じれば、指導を変えることができる。「心配から信頼へ」 ○子供たちのよいところを見付けほめることはとてもよいことだと感じる。先生たち同士での褒め合い、子供から先生のいいところを言ってもらうなどもあるとよい。 ○自他を大切にすることはとても重要だと思う。これからも続けてほしい。
	東京2020レガシーなどを通して、様々なスポーツへの関心をもたせ、運動する機会を設定し、親しませる。	4	4	６年生がeスポーツに取り組んだり、運動委員会がドッジボール大会や鬼ごっこ大会を計画し、全児童で取り組んだりするなど、新しいスポーツやルールを工夫したスポーツに取り組む機会を多く設定した。また、長縄キャンペーン、短縄キャンペーン、持久走キャンペーンなど、その運動に集中して取り組む期間を設定し、様々な運動に親しませる工夫をした。一度取り組んだスポーツをもう一度やってみたいと言う児童や、取り組み期間が終わっても継続して運動を続ける児童が多くいた。年度末の保護者アンケートでは、８０％の方が健康に対する関心が高まったと回答した。来年度は、学校の取り組みの意図を保護者に伝え、家庭とともに健康教育を推進していく。	4	○コロナ禍で難しいところもありますが、来年度からはもう少し体を動かす機会が増えたらいいと思う。 ○いろいろなスポーツに興味をもつことはとてもいいことであると感じる。オリンピックが終わっても、運動に親しむ気持ちをレガシーとして残してほしい。
開かれた学校	地域環境・人材（保護者）を活用・連携した学習を各学年年間3回以上実施する。	4	4	全学年３回以上実施することができた。コロナウイルス感染拡大防止下においても、適切な実施ができたと考える。市の施策に挙げられている人権教育、SOSの出し方、がん教育、認知症教育、薬物乱用防止教室など、地域人材の活用を図り、児童の理解を高めることができた。また、多摩六都科学館見学、田無神社見学など、特徴的な施設を利用した学習を実施することもできた。次年度は「ふるさと探究学習」として、今年度以上に地域をテーマにした学習を展開する計画を立てている。	4	○保護者や地域の理解と信頼を得るためには、情報発信力が重要となる。 ○開かれた学校づくりを目指し、地域との関りをもっと密にしてほしい。 ○来年度、ふるさと探究学習をきっかけに、地域とより結びつきの強い授業をしていただければ、地域として協力したいと考えている。
	学期に4～5回程度の保護者等の学校来校日の設定及び文書案内と学校配信一斉メール、HP更新を合わせて100回以上行う。	4	3	年度末の保護者アンケートでは、８８％の方から肯定的な評価を得た。諸通信は印刷物での周知を基本とする、情報の一元化を求める声が一部あるものの、情報共有の手段として、印刷物、学校HP上のデータファイル、一斉メール配信での併用したお知らせを充実させた。今後もより、学校情報を的確に共有できるようにする。HPの「ひとこと日記」や各学年のページでは、学校の様子を丁寧に配信した。学校へ来校する機会が減った保護者や地域の方との情報共有の場として創意工夫をして情報発信をすることができた。	4	○保護者などへの連絡も、お便りだけではなくメールで届くようになり、情報共有がとてもしやすくなっている。 ○ひとこと日記を楽しみにしている。HP更新の頻度が高いと、学校の様子がよく分かるので、来年度もこのまま続けてほしい。
特別支援教育の推進	支援を要する児童や保護者の情報を、生活指導朝(夕)会等を活用して、全職員で共通理解を図り、SC、SSW等関係機関と連携し、全校的な支援を行う。月1回以上の校内支援委員会の開催を行う。	4	3	教職員全員が、夕会等で、支援を要する児童の情報を共通理解することができた。また、必要がある場合には、諸機関と連携することができた。報告・連絡・相談を確実に行い、些細なことでも共有できるように今後も組織対応を進める。また、ふれあい月間の取組は、いじめや児童間の問題を未然に防止したり発見したりするきっかけとなった。生活台帳を活用することで、児童への対応を継続的に記録し、課題解決につながる取組を行った。加えて、年度末の保護者アンケートでは８５％の方から「学校は気軽に相談できる雰囲気である」と回答をいただいた。これからもお互いに情報を共有し合い、特別支援教育の推進を図っていく。	4	○一人一人に寄り添った丁寧な指導を感じる。情報の共有もできているので、今後は「推進」から「充実」へ向かってほしい。 ○きめ細かい指導にとても感心させられる。
	特別支援学級と通常の学級の交流を年間3回以上行う。また、特別支援教育の手法を活用した学習活動の充実を図る。	4	4	全学年が３回以上実施することができた。様々な行事や授業を一緒に行うことで、特別支援学級と通常級の関り合いを充実させた。また、特別支援学級設置校の利点を生かし、特別支援級担任による0JTなどを通し、通常級の担任も特別支援教育を深く学ぶことができた。通常級でも特別支援教育の手法を生かした学習活動を展開することができた。支援を要する通常級の児童の活動の様子からも、特別支援教育の手法を活用した学習活動が効果的であることを見取ることができた。	4	○学校全体で、交流、情報共有ができている。 ○様々な行事において交流が行われることを期待している。通常級の児童が、特別支援級の児童が交流に来ることを当たり前だと感じられるようになるとよい。
業務改善・働き方改革	週当たりの在校時間が60時間を超えない。	4	4	出退勤管理のもと、各自が勤務時間を超過しないように過ごせた。また、スクールサポートスタッフを活用することで、各種便りの印刷・配布、校内の消毒作業、掲示物の作成等の負担を軽減することができ、教職員勤務時間を削減することができた。教科の指導に関しては、教材のストックや指導案を保管することで、授業の準備時間を減らすことができた。	4	○先生がゆとりを持って児童に接することができるよう、勤務環境の改善に努めてください。 ○みんなで声を掛け合い、そして自身で時間を生み出すことが求められる。 ○SSS活用で在校時間を減らすだけでなく、自宅での仕事時間も減らせるように改善があるとよい。 ○多くの先生が、多くの児童を見るという考えは、教員一人一人の負担を減らせると思う。
	会議の精査や学校行事の精選、ライフワークバランスなどについて、自己申告書に具体的な目標を示し、取り組む。	4	4	教職員全員が、ライフワークバランスについて目標をもち、取り組むことができた。全員が目標をもつことで、行事の精選や規模縮小などを行うことができた。これからも、教職員が準備にかける時間と、児童にとって有益なものかを常に話し合い、児童への学習効果を落とすことなく、効率のよい働き方を見出していく。	4	○コロナ禍で難しくなっていると思うが、職員全体での交流が復活できるとよい。